

### (13) 鋳業（非鉄金属製錬・精製業）

18/17 19/18 ◎ 伸び率10%以上 ● 伸び率0～▲10%  
: 天気図マーク; ● ◎ ○ 伸び率0～10% ● 伸び率▲10%以下

#### 1. 企業経営動向

##### (1) 需要（表－1～3参照）

【銅】18年度の国内需要は、伸銅品も含め全体的に需要が増加する見込み。具体的には、電線で自動車向け及び旺盛な設備投資を受け建設向けが好調に推移することから、前年度比2.4%増の1,252.2千トンとなる見込み。

19年度は、景気の緩やかな回復が見込まれることから、電線、伸銅品とも前年度に比べ需要が伸びると予想され、全体としては1,279.0千トンとなる見通しである。

【鉛】18年度の国内需要は、はんだ及び主にブラウン管に用られる無機薬品が世界的な環境規制の高まりから消費量を減らしているが、蓄電池等の需要が伸びていることから、前年度比42.2%増\*の231.0千トンとなる見込み。19年度の国内需要は、他の需要分野が前年同様落ち込む中、景気の回復が見込まれることから、鉛蓄電池向けが増加し、前年度とほぼ同様の239.6千トンとなる見通しである。\*16年度、17年度は消費の報告不備があったため、消費の報告漏れが改善された18年度と前年度を比較すると、大幅な伸びとなる。見掛け消費値で比べると、1.1%の伸び。

【亜鉛】18年度の国内需要は、公共投資の削減等により一般めっき向けが減少していること等から、全体として464.9千トン\*と若干減少する見込み。19年度については、景気の回復に加え、鉄鋼業界のめっきライン増強の影響等を受け、498.1千トン\*と前年度に比べ増加する見通しである。\*報告値ベース、見掛け消費値では18年度602.6千トン、19年度618.1千トン。

##### (2) 生産・設備稼働（表－1～3参照）

【銅】生産については、18年度は一部製錬所の能力増強と原料事情の好転から前年度比9.2%増の1,550.7千トンとなる見込み。19年度も、一部製錬所が年度の下期に行う設備投資による生産能力増強の影響から、通期で前年度比5.3%増の1,633.0千トンの見通しである。19年度の稼働率は、好調な需要が後押しとなり、前年度増の96.3%となる見通しである。生産は増加するものの、国内外で需要が高まると見込まれるため、19年度の期末在庫量は、前年度と比べ100.0千トンに減少する見通しである。

【鉛】生産については、18年度は前年度比0.2%増の217.8千トンとなる見込み。19年度も、前年度とほぼ同水準の223.8千トンとなる見通しである。19年度の稼働率も、操業状態が前年度と変わらないと見込まれるため、ほぼ同水準の81.4%となる見通しである。期末在庫量については、19年度は需要の増加に比べて生産の大幅な上昇が見込めないことから、14.0千トンと減少する見通しである。

【亜鉛】18年度の実生産については、前年度とほぼ変わらずの、0.1%増の618.3千トンとなる見込み。19年度は、亜鉛めっき鋼板向けの内需の増加が見込まれていることから、同3.1%増の637.3千トンの見通しである。19年度の稼働率は、生産量の増加分とほぼ同じ割合で増加し、90.6%となる見通しである。期末在庫量については、18年度は、需

要増から86.1千トに減少する見込みで、19年度も、引き続き需要の伸びが生産の伸びを上回ると予想されることから、78.3千トへと減少を見込んでいる。

(3) 企業収益（非鉄大手8社、連結ベース：表－4参照）

18年度の非鉄大手8社の売上高は前年度比39.2%増の49,405億円、経常利益は同61.0%増の6,005億円と増収増益となった。これは、鉛、亜鉛等主要非鉄金属の買鉱条件の悪化等マイナス要因はあったものの、金属価格の上昇、国内外の旺盛な需要、円安の影響等によりプラスに転じたものである。

19年度については、前年度に引き続き銅の供給が世界的に伸びるとともに、昨年度の増収増益要因であった金属価格の上昇が見込めないとの予想等から、減収減益が見込まれている。

2. 設備投資動向（グラフ1参照）

17年度設備投資は、好調な業況を背景に、生産能力増強及び設備の更新、維持・補修をより一層進める動きが見られ、前年度比で45.5%の増加となった。

18年度設備投資は、前年度の好調の反動で、23.9%減になる見込みである。

19年度設備投資は、増収により設備投資が進められる動きがみられ、前年度比で58.0%増加する見通しである。

3. 長期資金調達・運用動向

(1) 長期資金運用動向

18年度は、一部企業で内部資金の範囲を超えた積極的な設備投資を進めるため、借入金を増加させる動きが見られたほかは、全体としては有利子負債を削減する方向で運用する見込みである。

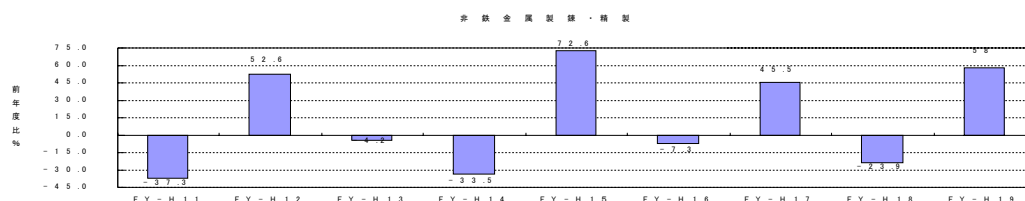
19年度は、設備投資の資金需要に対して、一部に外部からの借入も活用する動きも見られるが、概ね内部資金をメインにする方針に変わりはない見込みである。

(2) 長期資金調達動向

18年度は、各企業とも直接・間接金融のバランスを取りながら、借入金を圧縮させる傾向に変わりはない見込みである。

19年度もほぼ同様の動きとなる見込みである。

（グラフ1：設備投資の前年度比の推移）



表－１ 銅地金の需給実績及び見通し

(単位:千トン)

			16年度	17年度	18年度	19年度		
						上期	下期	計
期 初 在 庫			107.4	127.0	108.4	114.0	100.0	114.0
供 給	生 産	国 内 鉱 出	0.7	0.1	0.3	0.0	0.0	0.0
		海 外 鉱 出	1,193.1	1,251.2	1,349.5	703.0	735.0	1,438.0
		そ の 他 出	184.6	168.2	200.9	98.0	97.0	195.0
		小 計	1,378.4	1,419.5	1,550.7	801.0	832.0	1,633.0
	輸 入	83.5	73.1	80.5	30.0	30.0	60.0	
給 給 計			1,569.3	1,619.6	1,739.6	945.0	962.0	1,807.0
需 要	内 需	電 線	737.2	767.6	776.5	391.0	408.0	799.0
		伸 銅 品	442.0	438.9	456.7	226.0	234.0	460.0
		そ の 他	25.0	16.6	19.0	10.0	10.0	20.0
		内 需 計	1,204.2	1,223.1	1,252.2	627.0	652.0	1,279.0
	輸 出	201.9	268.4	354.4	180.0	200.0	380.0	
要 要 計			1,406.1	1,491.5	1,606.6	807.0	852.0	1,659.0
期 末 在 庫			110.0	108.4	114.0	100.0	100.0	100.0
過 欠			53.2	19.7	19.0	38.0	10.0	48.0
設 備 能 力			1,526.4	1,577.9	1,627.5	837.6	857.4	1,695.0
稼 働 率 ( % )			90.3	90.0	95.3	95.6	97.0	96.3
地金再資源化率 ( % )			13.4	11.8	13.0	12.2	11.7	11.9

注) 地金再資源化率とは、地金生産量に占めるその他(くず等)の割合をいう。  
(出所) 業界ヒアリング結果に基づく

表－２ 鉛地金の需給実績及び見通し

(単位:千トン)

			16年度	17年度	18年度	19年度		
						上期	下期	計
期	初	在庫	17.9	13.5	14.7	16.2	14.0	16.2
供	生産	国内鉱出	5.1	3.6	1.4	0.0	0.0	0.0
		海外鉱出	91.8	102.6	105.7	48.4	45.5	93.9
		その他出	122.7	111.1	110.7	65.1	64.8	129.9
		小計	219.6	217.3	217.8	113.5	110.3	223.8
	輸	入	10.5	24.6	30.9	12.0	12.0	24.0
給	給		248.0	255.4	263.4	141.7	136.3	264.0
需	内需	鉛管板	2.9	2.4	2.7	1.3	1.3	2.6
		蓄電池	132.2	132.0	205.9	106.0	110.0	216.0
		無機薬品	24.9	15.7	12.0	6.0	6.0	12.0
		はんだ	7.0	6.0	3.4	1.5	1.5	3.0
		その他	8.9	6.4	7.0	3.0	3.0	6.0
	内需計	175.9	162.5	231.0	117.8	121.8	239.6	
輸	出	2.8	4.0	7.9	4.5	4.5	9.0	
要	要		178.7	166.5	238.9	122.3	126.3	248.6
期	末	在庫	15.0	14.7	16.2	14.0	14.0	14.0
過	欠		54.3	74.2	8.3	5.4	▲ 4.0	1.4
設	備能力		274.8	274.8	274.8	137.4	137.4	274.8
稼働率（％）			79.9	79.1	79.3	82.6	80.3	81.4
地金再資源化率（％）			55.9	51.1	50.8	57.4	58.7	58.0

注) 地金再資源化率とは、地金生産量に占めるその他(くず等)の割合をいう。  
(出所) 業界ヒアリング結果に基づく

表－３ 亜鉛地金の需給実績及び見通し

(単位：千トン)

			16年度	17年度	18年度	19年度		
						上期	下期	計
期	初	在 庫	84.6	88.7	97.4	86.1	65.4	86.1
供	生 産	国 内 鉱 出	52.0	39.3	9.0	0.0	0.0	0.0
		海 外 鉱 出	498.3	473.6	502.3	258.1	284.3	542.4
		そ の 他 出	92.9	104.7	107.0	46.4	48.5	94.9
		小 計	643.2	617.6	618.3	304.5	332.8	637.3
	輸	入	42.9	48.7	41.9	18.7	21.3	40.0
給	給 給 計		770.7	755.0	757.6	409.3	419.5	763.4
需	内 需	亜鉛めっき鋼	228.8	217.5	219.7	123.7	119.3	243.0
		その他めっき	82.7	74.5	78.1	35.7	40.8	76.5
		伸 銅 品	65.6	62.5	67.7	36.0	34.6	70.6
		ダイカスト	48.6	46.4	47.0	25.7	21.6	47.3
		そ の 他	50.8	64.9	52.4	30.8	29.9	60.7
		内 需 計	476.5	465.8	464.9	251.9	246.2	498.1
	輸	出	62.7	60.1	68.9	32.0	35.0	67.0
要	要 計		539.2	525.9	533.8	283.9	281.2	565.1
期	末	在 庫	82.6	97.5	86.1	65.4	78.3	78.3
過	欠		148.9	131.6	137.7	60.0	60.0	120.0
設	備 能 力		703.2	703.2	703.2	351.6	351.6	703.2
稼	働 率 ( % )		91.5	87.8	87.9	86.6	94.7	90.6
地	金再資源化率(%)		14.4	17.0	17.3	15.2	14.6	14.9

注) 地金再資源化率とは、地金生産量に占めるその他（くず等）の割合をいう。  
(出所) 業界ヒアリング結果に基づく

表－４ 企業経営動向（非鉄大手８社、連結ベース）

(単位：億円、%)

	17年度実績	18年度実績	19年度計画
売 上 高	35,505	49,405	48,250
営 業 利 益	3,056	4,330	—
(売上高営業利益率)	(8.6%)	(8.8%)	—
経 常 利 益	3,730	6,005	5,231
(売上高経常利益率)	(10.6%)	(12.2%)	(10.8%)
当 期 利 益	1,727	2,885	2,484
(売上高当期利益率)	(4.9%)	(5.8%)	(5.1%)

(注) 非鉄大手８社決算短信、他決算資料より作成